

営業継続の9割復旧

気仙沼商議所 全壊業者が着々

県調査

県はこのほど、東日本大震災で被災した商業事業者を対象に行った営業状況調査の結果を公表した。それによると3月末現在、全壊の被害を受けて営業を継続している気仙沼商議所、本吉唐桑商工会、本吉唐桑商工会の約9割が店の復旧を終えた。仮復旧中の業者が減り、復旧・復興へ着実に進んでいる一方、全壊被害を受けたものの約4割が廃業している。

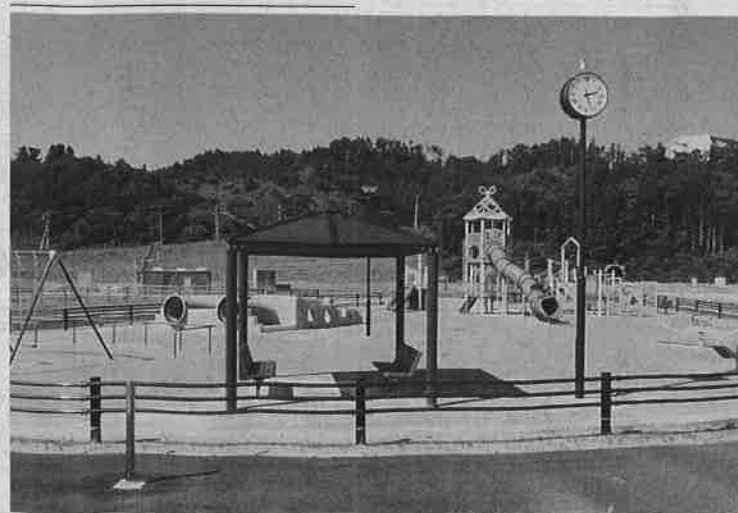
約4割は廃業

県から依頼を受けた調査(昨年3月末時点)は204業者で、33の商工会と六つの商工会議所が会員に対し、面接や電話などで3月末現在の状況を調査した。気仙沼商議所の会員で全壊被害を受けたのは480業者あり、このうち287業者が営業を継続。建て替えないものの「復旧済み」は前

本吉唐桑商工会で全壊したのは122業者。このうち営業を継続している79業者の中で「復旧済み」となったのは70業者と、前回調査から2業者増えた。「仮復旧中」は3業者減って9業者。全壊122業者のうち「廃業」は1業者増えて43業者(35・2%)だった。半壊、損壊などの被害があった67業者は全

東日本大震災で被災したため、新たな公園め、一部を除きこのほどは内陸に1・3キロ移動した。場所は移動した。松原公園の造成地で2017年2月から復旧工事を進

ブランコや滑り台設置 松原公園の遊具広場完成



完成した松原公園の遊具広場

市内赤岩杉ノ沢の津島長子さん(68)は「居酒屋などがたくさん並んでいた南町の風景を思い出した。内湾地区のかつてのにぎわいがまた復活してほしい」と語った。

震災前の街並み懐かしむ

気仙沼地区 神戸大大学院生が模型展

東日本大震災前の気仙沼市内湾地区の街並みを模型で再現した展示会が3、4の両日、「市まち・ひと・しごと交流プラザ」で開かれた。神戸大学の大学院生が、震災前の記憶を次世代に継承するために取り組んでいる事業で、訪れた人たちは模型を見ながら、かつての街並みを懐かしんでいた。同大学院工学研究科の学生らが復興支援と

再現された模型を指さし、「エースポートからフェリーに乗り、よく大島に遊びに行っていた」「飲食店や商店に足を運んだ」と当時を懐かしむように見入っていた。

住民も協力し避難訓練

恵潮苑 手薄な夜間に素早く



地域住民と連携し、施設利用者を避難させる

気仙沼市東新城の特養老人ホーム「恵潮苑」で1日夜、地域住民などと共同の夜間避難訓練が行われた。火災を想定した訓練で、参加者たちが連携し、自主避難の難しい入所者たちを速やかに避難させた。職員数が少ない夜間でも入所者たちを安全に避難させようと、毎年実施している。この日は職員6人と入所者48人が参加し、そのほか地域住民や消防団

通訳サポ

県国際化協会 25日

員も外での避難を手伝った。訓練は午後7時に洗濯室から出火したと想定。職員たちは延焼が激しいと判断すると、車いすを押して入所者を避難口に移動し、外で待機する地域住民たちに引き継ぎ、開始から

さわやかリース作り教室 小原木公民館

午後1時30分から同館で開かれる。市内唐桑町荒谷前の吉田和美さんを講師に迎え、ハープなどを使ったグリーンベースのリースを手作りする。参加費は500円。申し込みは19日まで同館(電話34・3261)で受け付けている。

で、英語に限らず、中国語、ベトナム語やインドネシア語などを話せる人を歓迎している。